

2023年度 須坂高等学校 学校評価 (部署別)

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標 (評価項目)	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	1 SAHの提案を基に、生徒の進路希望に、より対応した教育課程になるよう研究をすすめSAHに協力する。	生徒の進路希望を実現できる科目配置ができたか。	次年度の科目選択については、リベラルアーツ型単位制の理念に基づき、個々の進路希望に応じた多様な選択を実現できた。	A	生徒個々の実情に応じた科目選択について、さらに研究していく。
		2 SAHの提案を基に、大学入試改革と新学習指導要領を見すえた授業時間や科目の配置について、新しいスタイルを研究しSAHに協力する。	教育課程編成にあたって、大学入試改革を意識し新学習指導要領について研究を進められたか。	新学習指導要領に応じた教育課程を研究するとともに、共通テストに新たに導入される「数学C」と「情報」について、対応すべく教育課程表に位置づけることができた。	A	大学入試改革の動向を見極めながら、教育課程にも反映していく必要がある。
		3 「主体的・協働的・深い学び」のあり方について、教育課程の面から検討していく。	教職員の意識を喚起していくことができたか。	委員会の中での研究は積極的になされたが、全職員の意識喚起についてはさらなる検討の余地がある。	B	観点別評価について、各教科ごとの評価方法を全体で共有しながら、よりよい評価方法についてさらに研究していく。
教育活動	進路支援	1 主体的な学習姿勢、および継続的計画的な学習習慣の確立を図る。	・オリエンテーションや面談を通して家庭学習の習慣を確立させる指導ができたか。 ・自主学習を支援するための学習環境の整備ができたか。	・1,2学年において、主体的な学習への取り組みを促す指導を徹底して行った。ただし、学習に対する生徒の意識の差が大きいために課題である。 ・放課後、土曜日、長期休業中の自習室開放を計画通り行うことができた。 ・一部、生徒の要望に基づいた補習活動を実施することで、学習への動機づけを高めることができた。	B	・全体指導では行き届かない部分は、面談を通じて、生徒の個別のニーズをくみとりながら、調整していく。 ・授業が生徒の好奇心を刺激するものであるために、教員の日々の研鑽、研修を行う。 ・課題の与え方等、うまくいっている事例を共有する。
		2 キャリア教育に関するイベントの充実を図る。	・イベントを通じ、自分の将来を深く考える支援ができたか。 ・事前・事後の活動を充実させ、人生観の向上が図れたか。	・進路イベントは全て計画どおり実行することができた。 ・「先輩と語る会」など有意義であるにも関わらず、コロナ禍により停止されていたイベントを再開することができた。 ・事前事後指導をいねいに行い、生徒の進路意識を向上させることができた。	A	・大学との連携が足りない。研究室訪問など、新しい取り組みが必要である。 ・イベントで培った生徒の進路意識を活かしていく活動も必要である。 ・単発イベントだけでなく、連続性のあるものを計画できるとよい。
		3 希望進路の実現に向け、適切な指導を行う。	・学年通信や進路通信により学年や時期に応じた情報を提供できたか。 ・教科指導を充実させることができたか。 ・小論文や面接の指導を充実させることができたか。	・学年通信は各学年が工夫しながら、時期に応じた情報を提供することができた。 ・小論文指導において、システムを改善することで、多くの教員が関わり、生徒へきめ細かく指導を行う体制を作ることができた。 ・3年生を対象に志望理由書や小論文の書き方講座を複数回実施することができた。個人指導も綿密に行うことができた。	A	・生徒・保護者がどんな情報を求めているのか、意見を吸い上げる策が必要である。 ・全ての教員が小論文、面接指導等に関われるよう、教員向けの研修を設定したい。
教育活動	生徒支援	1 学校生活の中で生徒自らが個性の伸長を図りながら、好ましい人間関係を育てる。	・生徒自ら基本的な生活習慣を確立させるべく仕向けることができたか。 ・「いじめ」などがなく、生徒が安心して学校生活を送れるような支援体制作りができたか。 ・情報モラルに関する意識を高めることができたか。	・遅刻実態調査を年4回、アセス(生活環境適応感尺度)を年2回実施。それらに基づいて指導・注意喚起を行ってきた。 ・遅刻実態調査、アセス共にもっとスピード感が大切だと感じた。スピード感を持って実施・検討し、生徒支援に生かしていきたい。	B	・様々な改善に向け、実施方法等の再検討を行いつつ、学校全体での協力体制を整え実行していく。生徒自身の成長を促していきたい。
		2 日常の生活で直面するさまざまな課題に対して、主体的に判断して行動する力を養う。	・私物や貴重品の管理を徹底させることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。	・係としては生徒会とも協力しながら注意喚起を行うことはできていたが、実際には意識の高まりは限られており、外部からの注意喚起も多くいただいていた。	B	・日頃からの注意喚起を行いつつ、生徒会とも協力し、自身を守るためにも、行動に移せるよう意識の向上を図っていきたい。
		3 自分の行動に責任を持たせ、精神的に成長・発達しようとする過程を支援する。	・生徒会、校風委員会等と連携して、目標の実現をめざすことができたか。 ・保護者や関係機関との連携を密にした支援体制を作ることができたか。 ・「特別な事情のある生徒」に対して、個々の状況に応じて支援することができたか。 ・「特別な事情のある生徒」への対応において、個人情報に配慮した上での職員間の情報共有を図ることができたか。	・自転車管理、挨拶運動等校風委員会と連携協力しながら活動が出来た。 ・生徒の多様化に伴って、今まで以上に関係各所との連携が必要になってきている。密に連携を取りながらしつかりとサポート体制がとれた。 ・コロナ前よりも様々な状況が複雑化し、より一層コミュニケーションの大切さを感じる。より細かな対話をいかに補っていくかが課題と感じている。	A	・アセスを活用し生徒の多様性に対応すべく、校内外の関係諸機関との連携を密にし、情報共有をしながら、生徒へ個々の対応をしていきたい。 ・支援室のあり方自体を再検討し、問題点の改善を図り、学力保障も含め、学校全体での支援体制を整えていく。 ・学校目標でも基本的な生活習慣の確立を学校全体で考えていき、生徒自身が気になり、行動に移していけるよう支援していく。
教育活動	人権平和	1 基本的人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他人の人権を尊重する姿勢を育てる。	人権や平和の問題について積極的に考え、行動する力を伸張する機会や場を設けたり、状況に応じて適切に対応することができたか。	・1学年では、SNS講演会、SST講演会を実施し、SNSとの付き合い方や人間関係構築などについて意識や行動のあり方を学んだ。 ・全校では、百周年と絡めて、戦時中の先輩方の様子を御講演頂いた。当り前の日常があることのありがたみや平和の尊さを感じる機会となった。	A	講演で図られた人権意識向上を、日常生活の様々な機会でも、意識継続を図るかが今後の課題である。関係部署と連携し、取り組んでいきたい。
		2 自主的・民主的な集団づくり、協働的な仲間づくり、いじめや差別をなくす関係づくりを日常の生活の中で図る。	ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動などを通じて、集団や仲間について学ぶ機会や体験する場を設けることができたか。	コロナ禍が明け、対面でも他者とコミュニケーションを図る機会が増えた。様々な活動の中で、他者を理解する重要性が感じられた。	A	人権や命に関わる意識や思考を、自己や他者との日常の生活や取り組みにどう生かし実践していくかを継続的につなげていきたい。
教育活動	生徒会	1 より良い学校生活を送るためにお互いの意見や立場を尊重し合いながら計画を立案し、その計画の実現を目指せるよう支援をする。	取り組みごとに「基本方針」を作成し、議論を深めて具体的な計画が立てられたか。その内容が会員の願いにかなうとともに生徒会の発展につながるものであったか。	新たな企画としてプレ百周年祭を実施しその成果をりんどう祭にも反映させることができた。生徒総会前の議案審議を合同ホームルームで実施した。	A	生徒総会で承認した「生徒原則」をどのように具体化し学校生活の中で生かしていくかが大きな課題となる。
		2 生徒会執行部、各委員会が連携して活動ができるよう生徒間の協働性を向上させる。	・執行委員会の議論や活動が生徒会全体に共有されているか。 ・各委員会が独自の活動を創造的に展開し生徒間の協働意識が深められたか。	正副会長のリーダーシップが各所で発揮され、執行部として統一した活動ができた。委員会自身が活動も定着しており、各種通信の発行も継続している。	A	新聞委員会の活動を活発にし、新聞の定期発行を目指したい。生徒会活動におけるタブレットの使用の仕方については引き続き検討していきたい。
		3 地域社会へ積極的に発信し、地域に開かれた生徒会活動を目指す。	・りんどう祭を地域に開き、同窓会やPTAとの協働が進んだか。 ・須坂市を中心とした地域の活動に参加できたか。	百周年記念事業に関わる様々な行事や作業に、執行部が参加態勢をつくることができた。図書館のリノベーションへの協力や学有林の植樹祭への参加は特筆すべきことであった。	A	百周年記念事業に参加した成果を継承したい。地域の関わりをより深めたい。りんどう祭を構想したい。
教育活動	図書・視聴覚	1 図書館利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。	図書館利用が増えたか。	通年休図書室での運用となり、一部の蔵書しか利用できなかったが、朝読書等読書の機会を設けた。	B	次年度は新図書館で全蔵書を利用しながら、読書の啓発活動ができることと良い。
		2 教科・授業、小論文に関する資料の充実を図る。	利用者の要望に応じることができる資料の充実が図れたか。	休図書室に教科・授業・小論文に関する図書を移動し、不足分は相互貸借等で補った。	A	授業や進路に役立つ本をさらに充実させるとともに、司書によるレファレンスサービスを活用してもらおう。小論文コーナーについて、日常的にPRする。
		3 快適な環境を整え、更なる施設の利用促進を図る。	自主学習などにも、多くの生徒が利用したか。	リノベーションにより快適な図書室となり、3年生を中心に多くの生徒の自主学習に利用された。	A	自主学習以外での施設の利用についても図書委員とともに考えていきたい。
		4 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。	昨年度断熱等の環境整備をして頂き、今年度はいくつかの講座の授業に利用された。	B	次年度はさらに有効に利用する方策を考えたい。また、県の視聴覚教材の貸出について広報する。

2023年度 須坂高等学校 学校評価 (部署別)

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標 (評価項目)	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	保健	1 心身の健康管理を図る。	保健室への来室者への対応が適切であったか。また、コロナ対策を含め、関係者や担当部署との連絡・連携ができていたか。	必要に応じて担任や関係職員・SCと連携をとることができた。	A	SC利用者は年々増加しているため今後も連携を密にしたい。
			校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認改善ができたか。	安全衛生委員会と連携して確認した。	B	特に緊急性が必要な施設・箇所は優先的に予算措置をお願いしていく。
			学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。	定期健康診断は計画通り実施し、その結果をもとに必要な生徒には、個別指導を行った。	A	保護者懇談会を利用したことによって事後指導の効果が上がった。
	保健	2 環境の管理を図る。	学校環境衛生検査を適切に行い、その結果を生かされたか。	学校環境検査は計画通り実施している。	A	継続した取り組みを行っていきたい。
			校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認改善ができたか。	安全衛生委員会と連携して確認した。	B	特に緊急性が必要な施設・箇所は優先的に予算措置をお願いしていく。
			3 保健指導を充実させる。	コロナ対策を含め、自身の健康課題に対して、興味関心をもてるような広報活動ができたか。	保健だより、保健関係の掲示物で継続的に広報活動を行っている。	A
・保健委員会等による広報活動を行ったか。 ・保健委員会の活動支援ができたか。	保健だよりは、トイレに掲示するなどの工夫をし、多くの生徒の目に留まるようにしている。	A		保健委員が作成する保健だよりの一層の充実を促す。		
教育活動	PTA	1 PTA活動を通し、学校と保護者及び保護者間の情報交換と親睦が深められるようにする。	・PTAの諸会合の案内が会員に周知できたか。 ・PTA活動に関する情報が会員にスムーズに発信できたか。	・周知については書面とオクレンジャーを使い分けた。 ・4年ぶりのPTA総会開催となったが、保護者の出席率はコロナ禍前より低下した。	A	・保護者の参加意識を高めるよう、PTA役員と連携を図り研究する。 ・クラブ活動懇談会の充実を目指す。
		2 PTA研修会が保護者にとって本校生徒の生活や進路指導についての理解と研究を深める機会となるようにする。	・PTA研修会の案内が会員に周知できたか。 ・PTA研修会に多くの保護者が参加したか。 ・PTA研修会の満足度は高かったか。	・開催通知は生徒を通して配布されたが、一部の保護者に届かない例もあった。 ・研修会に参加した保護者からは高い評価を得た。参加率はコロナ禍前より低下している。	B	・開催通知は書面配布と共にオクレンジャーを更に有効に活用する。 ・保護者にとって魅力的・有意義な研修となるよう研修内容と事前準備を検討する。
学校運営	教務	1 学校が円滑に運営されるように努める。	校内の諸行事を適切に計画し、運営できたか。	早めに計画し、各部署と連携して、諸行事を円滑に運営することができた。	A	職員会での1カ月前提案を目安に、今後も引き続き、各部署と連携しながら計画を進めていく。
			欠席連絡の方法、緊急連絡体制について整備できたか。	6月からオクレンジャーを用いて、欠席連絡を行うように変更し、事務室の電話対応が大幅に緩和された。災害時に安否確認をスムーズに行えるようにする。	B	欠席連絡のフォーマットを改善しつつも、継続して行いたい。災害時における安否確認が即座にできるように意識を持っていきたい。
		2 校内の情報を外部に発信し、本校への一層の理解を深めてもらう。	公開授業、体験入学、学校説明会についてPRを行い、多くの中学生・保護者の参加が募れたか。	事前に中学校へ連絡を行い、例年通りの参加者であった。次年度の生徒募集の観点からも、改善できる点を模索する。	A	多くの中学生に体験入学に参加してもらえるような工夫(日程調整、内容など)を検討したい。
			ホームページ、パンフレット、須坂だよりなどによって、本校活動を外部に向けて広く紹介できたか。	行事が行われるたびにホームページを更新することができた。須坂だよりも定期的に発行できた。パンフレットを刷新し、よいものを作れた。	A	須坂だよりのあり方を、ホームページとの関係を含めて検討していきたい。ホームページの刷新も視野に入りたい。
学校運営	情報処理	1 情報処理機器及びネットワーク利用による校務の合理化の推進を図る。	校内ネットワークを安定的に維持管理するとともに、各種情報機器のトラブルに迅速に対処することができたか。	情報機器の増加や経年劣化により、トラブルの発生件数が急増している。授業や校務に支障が出ないよう、できるだけ迅速な対応を心がけた。	B	長期使用しているプリンターなど、修理対応ができない機器が増えている。適時の修繕や更新を計画していく必要がある。
			統合型校務支援システムへの移行に向けて、準備を適切に行うことができたか。	校内掲示板機能、出欠入力機能および1・2学年の成績処理機能を先行利用し、操作性や問題点を確認してきた。	B	既存のデータ処理システムとの連携と校務支援システムへの移行を円滑に進めていく。
		2 情報処理機器及びネットワークを利用した教育活動の推進を図る。	授業や各種講演会、研究授業等で、校内のWi-Fi環境や生徒用iPad等の情報機器を活用できたか。	・全生徒がiPadをもつ環境のもとで、各教科の授業でICT機器を有効利用できた。 ・オンライン授業やWeb会議等で情報機器を活用している。	A	全生徒がiPadをもつ環境を生かし、全教育活動において機器を有効に活用できるよう、継続して研究を深めていく。
	3 情報の管理という面で個人情報や著作権に関して職員や生徒へ周知を図るとともに、ホームページを通じた適切な情報発信をおこなう。	デジタル教材や機器の導入・更新を進め、教育活動におけるネットワークの活用を推進できたか。	Web会議の急増、オンライン授業の多様化に対応するための機器の導入や、利用に関する研修、サポートを随時実施してきた。	A	校内のデジタル環境の急激な変化と多様化に対応できるよう、見直しをもった機器の導入・更新を今後も続けていく。	
		個人情報や著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員と生徒に伝えたか。	・年度当初に周知を図った。 ・セキュリティを確保しつつ、公務を円滑に遂行できるよう、各種研修会を行った。	B	今後はクラウドサーバーの利用が進むと予想される。データを安全に管理し活用していく方策を検討していく必要がある。	
		学校ホームページについて、各係から依頼された話題を迅速にHPにアップすることができたか。	行事が行われるたびにホームページを更新することができた。	A	閲覧しやすいようにホームページがスマートフォン対応になるように刷新する。	